

どんな時代にも活躍できる 未来のために！

進学先を決めるとき、あなたにとって大切なことは何ですか？

これからの社会は、目まぐるしく変化していきます。

どのような社会になっても対応できる自分になるために、
海外の大学も進路の選択肢の一つとして考えてみませんか。

GE-NET20 海外大学等進学支援



ダブリン大学



東京都教育委員会
Tokyo Metropolitan Board of Education

これからの時代に求められる人材には、

コミュニケーション能力と思考力、そして創造力が大切です。



海外留学では、異なる文化の中で生活することに挑戦します。
様々な体験を通じて多くの力を自然と身に付けることができます！

海外留学によって得られる力

コミュニケーション能力

コミュニケーションの基本は相手を知ること。異文化を理解し、異なる考え方や見え方が分かれば、互いの理解も深まります。多様な意見を聞くことで、幅広い柔軟な視点をもって対話できる力が身に付きます。

思考力・発信力

海外の授業は常に意見を求められる、考えるトレーニングの連続です。プレゼンテーションやエッセイ等の課題も多いため、自分の意見をもつこと、発信できるようになり、積極性を身に付けることができます。



語学力

授業時間はもちろん、休み時間の会話も全て現地の言葉。日本でも語学は学べますが、日々使用することにより生活に根差した自然な言い回しができるようになります。言葉による壁は徐々に取り除かれるでしょう。

創造力

これからの時代は予測できない、前例のないことが起こる時代と言われる、そうした環境下で新しいことを考え、作り出す力が求められます。留学は新しい体験の連続で、ゼロからイチを生み出す創造的な力が自然と鍛えられます。

世界に広がるネットワーク

世界中から集まってくる留学生や現地の学生と友達になることができます。卒業後も交流を続けることができれば、世界で起こっている出来事をいち早くキャッチし、互いの立場で意見交換ができるような関係性も築けます。

ホントに行ける？ ココが心配！ 海外の大学進学

一見ハードルが高く見える海外の大学。
自分が留学するなんて無理だ、と思っている人もいるかもしれません。
でも、仕組みを知って準備をすれば大丈夫！

入試

入学試験がない

海外の大学のほとんどは、書類審査で合否が決まります。入試対策の心配はありませんが、普段の勉強を頑張り、どの教科もバランスよく学習し、力を付けておきましょう。



英語力

留学前に英語力UP！

海外の大学に入学するためには、英語力があることが必要条件です。多くの大学には附属の語学(英語)コースがあるので、渡航してから英語力を高めることもできます。高い英語力があれば、出願できる大学も広がります。

※国や場所により、英語以外の言語が必要となる場合もあります。



治安

ルールを守って行動を

大学に入学すると、安全に学生生活を送るためのオリエンテーションが行われます。そこで得た情報に従い、ルールを守って行動することが大切です。



新型コロナの影響

海外ではほぼ平常

現在、国同士の往来はほぼ正常に戻っています。授業はオンラインによる学習環境も残しながらも、ほとんど対面の授業となっています。



将来

留学で選択の幅が広がる

最近では海外の大学を卒業する学生向けに、採用面接や入社時期を柔軟にする企業が増えています。グローバルな人材を求める国内外の企業も多く、オンラインの就職活動のイベントも充実しているため、就職先の選択の幅が広がっています。



費用

保護者と相談を

学費、生活費について、保護者としっかり話し合いましょう。入学から卒業までのトータルの期間を考えておく必要があります。

●大学の1学年(9か月)の平均的な授業料と滞在費

国名	授業料	滞在費
アメリカ	80万円～600万円	70万円～150万円
イギリス	190万円～390万円	140万円～170万円
カナダ	110万円～270万円	90万円～120万円
オーストラリア	170万円～380万円	90万円～130万円
ニュージーランド	150万円～350万円	80万円～110万円
マレーシア	50万円～120万円	70万円～80万円

US 116円、UK 161円、CAN 93円、AUS 85円、NZ 81円、ML 30円 で計算



奨学金

留学生に向けた様々な奨学金があります。代表的なものは、(独)日本学生支援機構による奨学金です。その他、地方自治体や外国政府による奨学金、民間団体、入学する大学の奨学金などがあります。

(独)日本学生支援機構

■学位取得型奨学金(返済不要)

海外の大学を卒業して得られる学士号を目指して留学する方を対象とした奨学金。

- ・9月頃募集要項を公開、10月中旬に応募締め切り
- ・原則4年間、月額奨学金と授業料を支給します。



■貸与奨学金(返済必要)

返済が必要な奨学金で、海外の大学に進学する前に申し込む方法(予約採用)と、進学後に申し込む方法(在学採用)があります。



ローン

海外留学に適用できる教育ローンを利用して、費用を借りることも可能です。条件は金融機関ごとに異なるので、Webサイト等で確認しましょう。無理のない返済シミュレーションを作ることが大切です。

国の教育ローン 日本政策金融公庫



大学生・社会人になってからの留学

海外の大学に進学しなくても、日本の大学からや社会に出てから、海外の大学や大学院などへ留学する人も多くいます。

	短期留学	交換留学	大学留学	大学院留学	その他
大学生	○	○	○	○	○
社会人	○	—	○	○	○

世界の教育制度

海外の教育制度は、日本と異なります。
海外進学等で人気の国の教育制度を見てみましょう。



イギリス

イギリスには約160校の大学・カレッジがあり、ほとんどが国公立です。大学は通常3年間で専門課程を集中して学ぶため、日本からの留学生は約1年間の大学進学準備コース(ファウンデーションコース)※を経てから入学します。大学教育は900年以上の長い歴史があり、世界トップクラスの名門大学も数多くあります。カレッジでは職業教育に特化したスペシャリストを養成します。

情報収集に
役立つサイト

Discover Uni

<https://discoveruni.gov.uk/>

ヨーロッパ(EU)

英語で授業を行う大学が多くあります。現地学生と留学生が同じ授業料で学べる国もありますが、学部により異なる場合もあります。学士号の取得には、基本的に3~4年間かかります。



マレーシア

マレーシアには国立・私立併せて100校以上の大学があり、ほとんどの私立大学では英語で授業を行っています。欧米と比較して年間の学費が安価なことが特徴の一つ。多文化・多民族国家であるため、日々、多様性を感じながら生活できます。イギリスやオーストラリアなど他国の大学へ編入することも可能です。

情報収集に
役立つサイト

**Education Malaysia
Global Services**

<https://educationmalaysia.gov.my/>

アジア

英語で学位取得可能な大学や学部が多く、イギリスやオーストラリアの大学の学位取得が可能な大学もあります。学士号の取得には、基本的に3~4年間かかります。また、入学試験がある国もあります。



オーストラリア

オーストラリアには約40校の大学があります。留学生に関する教育の権利や環境を定めたESOS法など、国を挙げて体制づくりを行い、海外からの学生を受け入れています。大学はイギリス同様1年間の大学進学準備コース(ファウンデーションコース)※や、パスウェイと呼ばれるコースを経て進学をします。日本から近い英語圏の国で、時差が少なく暮らしやすいのも特徴です。

情報収集に
役立つサイト

Study Australia

<https://www.studyaustralia.gov.au/japanese/home>



カナダ

カナダには約100校の大学があり、ほとんどが公立で、各大学間の差が小さいことが特徴です。2年制大学と4年制大学があり、またその両方の機能を兼ね備えた大学も多くあります。カナダは「世界でもっとも住みやすい都市ランキング」でランクインする都市が多く、住みやすさも特徴の一つです。

情報収集に
役立つサイト

Universities Canada

<https://www.univcan.ca/>



アメリカ

アメリカには、公立・私立併せて4,000校以上の大学があります。2年制大学と4年制大学があり、学べる分野が幅広く、チャレンジしやすいのが特徴です。フレキシブルな教育制度が特徴で、比較的入学しやすい2年制大学から4年制大学へ編入できる制度が整っています。専攻分野の決め方が日本とは異なります。日本では大学受験時に専攻を決めますが、アメリカでは入学後にじっくり考えて決めることができます。

情報収集に
役立つサイト

College Board

<https://www.collegeboard.org/>



ニュージーランド

国立総合大学が8校、また職業に直結した教育を行う工科大学やポリテクニクが16校あります。ニュージーランド政府は教育の質を保つためにこれ以上大学の数を増やさない方針を掲げ、教育の質を審査するなどの管理を行っています。学部課程は通常3年間で、日本からの留学生は1年間の大学進学準備コース(ファウンデーションコース)※を取るケースが一般的です。

情報収集に
役立つサイト

New Zealand Education

<https://www.studywithnewzealand.govt.nz/ja>

その他にも、様々な国や地域への留学が可能です。

※大学進学準備コース(ファウンデーションコース)とは

イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの3カ国では、大学は専門課程のみを教えます。そのため、事前に入学するために必要な知識を身に付けます。学ぶ内容は専攻分野の基礎知識と、リサーチ方法やディスカッション、レポートや論文の書き方などの「アカデミックスキル」と言われるもので、期間は通常1年間です。

進学 スケジュール

海外の大学は、多くの場合、書類審査で合否が決まります。大学ごとの出願対策が一部の名門大学を除き必要ないため、日本の大学と海外の大学を併願することも可能です。

進学スケジュール

国内の大学 進学準備

高校1年生

高校2年生

高校3年生

卒業

大学入学
準備期間

大学入学

海外の大学 進学準備

留学したい国や大学の
情報収集

4月

出願用テスト対策
(SAT®*などが必要な場合)

留学先の国や大学の
情報収集／英語試験対策

8～12月

出願準備

11～3月 出願
12～5月 合否発表

3月

卒業／渡航準備

4月

語学研修開始(語学学校)

7～9月

入学

1～3月

入学

国や大学により入学
時期が異なります。
また、年に複数回入
学時期がある大学も
多くあります。

*アメリカの大学へ進学するための共通テストで、米国内の高校生は在学中に受験します。トップクラスの大学に出願する場合、留学生も受験が必要となる場合があります。

8月

オープンキャンパス

9月

大学入学共通テスト出願

9月以降 総合型選抜

11月以降 学校推薦型選抜

1月

大学入学共通テスト／大学入試

3月

合格発表 卒業

4月

入学

日本の大学と併願する場合の注意点

(出願前の情報収集が大切)

日本の大学受験準備と同時に、海外の大学への出願にどのような書類が必要かを各大学のウェブサイトの出願情報で調べ、早めに準備をスタートしましょう。出願時に預貯金の残高証明や、TOEFL®やIELTS™のスコア提出が必要な大学もあります。

知っておきたい！ 出願書類&準備

最も大切なのは、日頃の学習の成果となる高校の成績です。学習を頑張ることで、より多くの選択肢が広がります。英語やその他の準備も、少しずつ進めましょう。

英語力

まずは進学したい大学の
基準到達を目指そう

出願するためには、大学の授業を受けられる英語力があることを証明することが必要です。リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの4技能が求められ、ほとんどの大学でTOEFL®やIELTS™などのスコアが出願時に必要です。それぞれのスキルに必要なスコアレベルを設定している大学もあるので、希望する大学の出願条件を確認し、そのスコアに到達するための計画を立てましょう。

スコアの目安：

2年制大学 TOEFL iBT® 46～61、IELTS™ 4.5～5.5

4年制大学 TOEFL iBT® 80～100、IELTS™ 6.0～7.0

TOEFL®

アメリカをはじめ、世界の大学で採用されている英語力テスト。日本ではインターネット版のTOEFL iBT®テストが実施されており、試験会場でパソコンを使用して解答する。

IELTS™

イギリス、オーストラリアなど世界の大学や国際機関で採用されている英語力テスト。スピーキングは面接形式、その他3技能は筆記形式。またスピーキング以外はパソコンを使って行う、IELTSコンピューター版もある。

成績

高校での頑張りが最も大切

海外の大学は、入学試験ではなく書類審査を行います。そのため重要なのは、日頃の学習の成果です。エッセイや推薦状が必要な大学も、高校の成績は必ず提出します。日頃から積極的に学習に取り組み、どの教科もバランスよく学習し、力を付けていきましょう。日本の大学への進学を目指す場合も、海外の大学への進学を目指す場合も、大切なのは目標をもって主体的に学び続けることです。

エッセイ

自分の考えを伝える

大学によってはエッセイの提出が求められる場合があります。テーマは「なぜその大学に進学したいのか」「その大学で何を勉強したいか」などが一般的です。自分の考えを伝えることができるよう、エッセイを書く練習をするとよいでしょう。



ケンブリッジ大学



推薦状

先生に作ってもらう必要も

主にアメリカの4年制大学に出願する際に、提出が求められます。推薦状が必要な場合、担任の先生や、英語の先生に依頼しましょう。2通以上必要となる場合もあります。英語で作成するものなので、時間に余裕をもって依頼しましょう。

世界の大学へ 進学するのも夢じゃない！

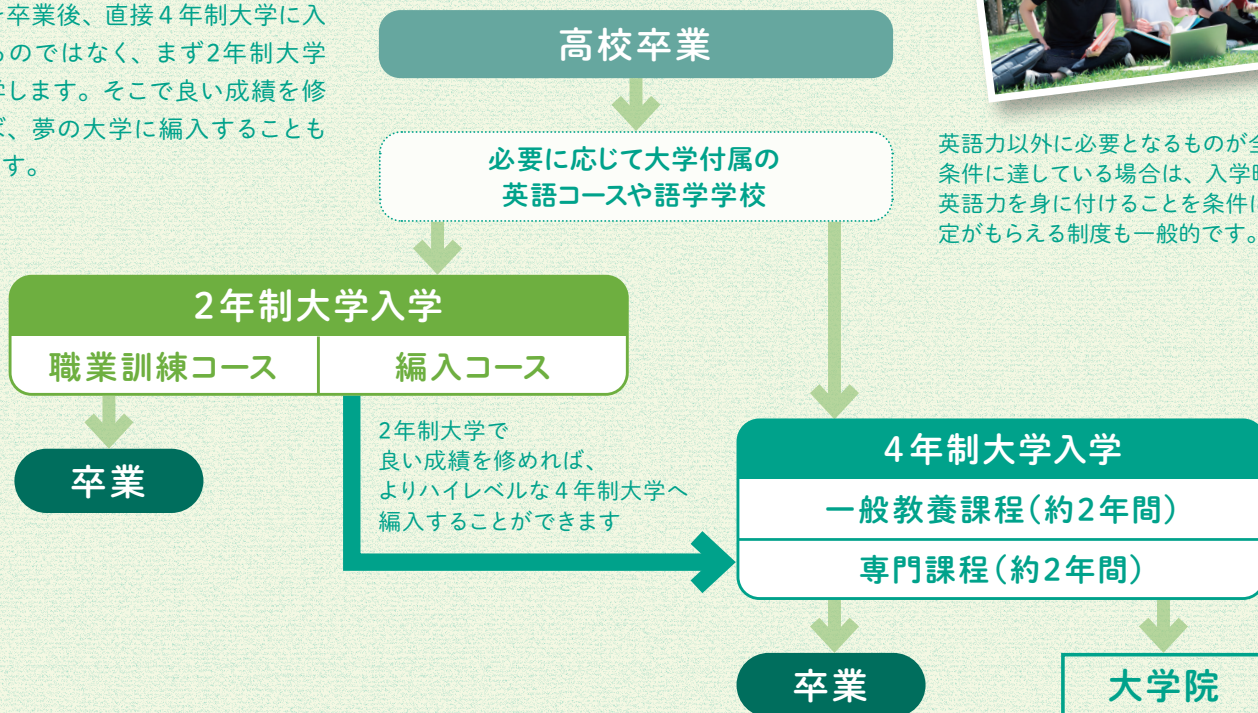
自分には海外の大学への進学は難しいと諦めてしまう人もいるかもしれません。
しかし、これからの頑張りで、進路の選択肢は広がられます。

アメリカ・カナダの場合

高校を卒業後、直接4年制大学に入学するのではなく、まず2年制大学に入学します。そこで良い成績を修めれば、夢の大学に編入することもできます。



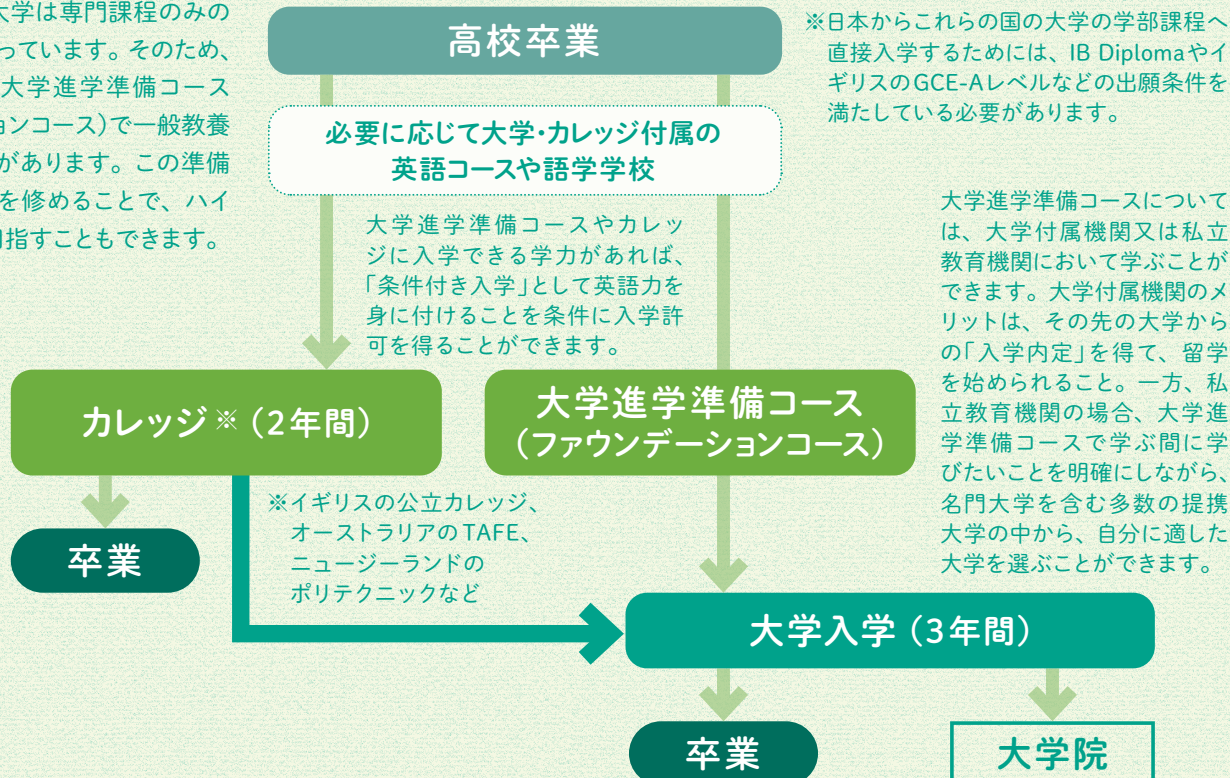
英語力以外に必要なものが全て合格条件に達している場合は、入学時までに英語力を身に付けることを条件に合格内定がもらえる制度も一般的です。



イギリス・オーストラリア・ニュージーランドの場合

これらの国では大学は専門課程のみのカリキュラムとなっています。そのため、日本の高校生は大学進学準備コース(ファウンデーションコース)で一般教養課程を学ぶ必要があります。この準備課程で良い成績を修めることで、ハイレベルな大学を目指すこともできます。

※日本からこれらの国の大学の学部課程へ直接入学するためには、IB DiplomaやイギリスのGCE-Aレベルなどの出願条件を満たしている必要があります。



大学進学準備コースについては、大学付属機関又は私立教育機関において学ぶことができます。大学付属機関のメリットは、その先の大学からの「入学内定」を得て、留学を始められること。一方、私立教育機関の場合、大学進学準備コースで学ぶ間に学びたいことを明確にしながら、名門大学を含む多数の提携大学の中から、自分に適した大学を選ぶことができます。

先輩たちの体験談

海外の大学で学び、
社会人になった先輩の体験を聞いてみましょう。

大学で身に付けた企画力や 積極性が就職活動で評価されました



T.W.さん

グリフィス大学(オーストラリア)

2020年10月卒業

→外資系コンサルタント企業に内定

高校3年までは、サッカーばかりやっていて、英語は受験勉強を始めた頃から本腰を入れて学び始めました。以前から異文化に興味があり、親からも海外の大学で学べば、よい経験になるのではないかと、言われたのが、海外の大学を目指したきっかけです。初めてひとりで海外に行ったので不安はありましたが、大学の進学準備コースが始まってみると、オーストラリアは生活しやすく、温暖な気候でのんびりした雰囲気があり楽しそうだな、と感じました。大学に入学してからは、読むことは何とかなりましたが、話す・書くのは大変でした。しかし必要な勉強の量がものすごいので、自然と慣れました。その環境に入ってしまうという間にかできるようになる、というのが感想です。

専攻はHotel Management & Tourismを専攻するつもりでしたが、入学する時点でEvent Managementに変更しました。最初は旅行業界にいきたいと思っていたのですが、進学準備コースで勉強したとき、より自分で企画できるものを

選びたくなったのです。幸い単位の多くが移行できたので、時間も無駄になりませんでした。

大学の授業はイベントを作り上げていくことがメインです。自分でコンセプトを考え、プランを立て、開催地を比較検討し、当日までのタイムラインや予算案を作るところまで行ったので、とても実践的でした。

現在内定をもらったコンサルタント会社では、身に付けた企画力や、留学先でもサッカーを継続したこと、現地でいろいろなことに参加した積極性などを評価いただいたようです。外資系の企業なので、留学経験を生かした仕事ができることを楽しみにしています。



高校3年で留学を決意、 思いがけず奨学金も支給されました



K.A.さん

ニューヨーク州立大学コートランド校

2020年5月卒業

→インターナショナルプリスクール講師

もともと私は日本の大学に進学し、交換留学の制度を使って海外の大学で勉強しようと考えていました。高校3年で進路を考えたとき、心理学を専攻したいと思い、また一方で英語が好きで話せるようにもなりたと思いました。両方をどう選べるかを考えている中、高校の先生に背中を押される感じで留学を決意したのです。

留学先は心理学の強いアメリカにしました。語学学校を経て2年制大学に入学、その後4年制大学への編入を決意しました。

ニューヨーク州立大学コートランド校に入学を申請したところ、合格通知のメールに申請もしていない奨学金の知らせがあり、大変驚きました。大学が選考した結果とのこと。おそらく出願時の成績(GPA3.7)によると思います。また心理学の先生に推薦状を書いてもらったことや、ボランティア活動も考慮されたのかもしれません。

授業料が年間1万5,000～7,000ドル(当時)ほどかかる

中、年間7,500ドルの奨学金を2年間いただき、とても助けられました。母も驚いていました。

奨学金は成績が一定以下になると打ち切られるので、毎学期の成績は維持していました。そして新入生歓迎などのボランティア活動にも積極的に励みました。大学はインターナショナルオフィスが親切で、留学生のためのパーティなどを開いてくれましたし、いつも何かと助けてくれました。

これから留学を目指す方は、留学前に成績を上げておくことをお勧めします。入学後に成績を上げるのは大変です。事前に勉強しておいた方がきっと満足できる留学につながると思います。



GE-NET20
海外大学等進学支援
公式ホームページ

<https://global-edu.tokyo/>

令和5年5月
発行 東京都教育庁 グローバル人材育成部 国際教育企画課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03-5320-6865
編集・印刷 留学ジャーナル

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

R80

古紙配合率80%再生紙を使用